

令和7年度

「運営に関する計画」

(様式2)

目標別シート

中間反省

大阪市立柴島中学校

令和7年4月

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組みなかった

年度目標

【3つの最重要目標】 目標1 安全・安心な教育の推進

【大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標】

| 担当 | 項目 | 2 学期 | | | 3 学期 | | |
|----|---|-------------|-------------------------|--|-------------|-------------------------|----------|
| | | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 集育 | 1 年度末の校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。(前年度73.3%) | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 日常の指導や関わりの中でいじめは許されないことを指導していく。 | | | |
| 集育 | 2 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 9.1%) | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 学年教員だけでなく、全職員で不登校生徒に関わっていく。 | | | |
| 集育 | 3 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 62.5%) | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 学年教員だけでなく、全職員で不登校生徒に関わっていく。 | | | |
| 集育 | 4 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を98%以上にする。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | いじめアンケート、相談申告機能を引き続き確認していく。 | | | |
| 集育 | 5 年度末の校内調査における「生徒会・各委員会・係活動に関心を持ち積極的に参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を昨年度以上にする。(R4 74.0% R5 85.0% R6 81.9%) にする。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 委員会生徒の役割を明確にし、責任感を持つように指導していく。 | | | |
| 集育 | 6 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度(0名)と同数以下にする。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 複数回行った生徒は今のところいない。 | | | |
| 集育 | 7 年度末の校内調査において、不登校生徒の総数を前年度(12人)より減少させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 現在12人で、2学期になってから増加した。 | | | |
| 集育 | 8 年度末の校内調査の「先生はイジメなど私たちが困っていることについてよく対応してくれる。」の肯定的回答を前年度以上にする。(前年度89.7%)。また「命の大切さについて学ぶ機会が多い。」も同様に前年度以上(前年度94.0%)をめざす。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 気づき次第、早急に対応する。 | | | |
| 集育 | 9 年度末の校内調査の「1日4時間以上、携帯電話やスマートフォン、タブレットで通話やメール(SNSを含む)、インターネットをしている(ゲームをする時間は除く)。｣という質問において、肯定的回答の割合について、50%以下をめざす。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | スマホの使用時間は長くなっている傾向がある。集会等でスマホの時間を減らす呼びかけをしていく。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート) | | | | | | | |
|--|--|----------|--------------------------|--|----------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | |
| 年度目標 | | | | | | | |
| 【3つの最重要目標】 目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上 | | | | | | | |
| 【大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標】 | | | | | | | |
| | | 2 学期 | | | 3 学期 | | |
| 担当 | 項目 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 教務 | 1 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 83.7%以上にする。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 授業や学級活動で意見を交換する機会を増やし、互いの考えを認め合えるようにする。 | | | |
| 教務 | 2 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的 に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 | — | チャレンジテスト後に評価する。 | 丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。 | | | |
| 英語 | 3 CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を53%以上に向上させる。 | — | 英語力テスト後に評価する。 | 4技能のバランス良い指導を行う。 | | | |
| 教務 | 4 中学生チャレンジテストにおける対府比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (R5 1年【78期】3科 112.4) (R6 1年【79期】3科 108.4) 2年【78期】5科 116.3) | — | チャレンジテスト後に評価する。 | 丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。 | | | |
| 教務 | 5 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 (R5 1年【78期】3科 13.7) (R6 1年【79期】3科 12.1) 2年【78期】5科 10.8) | — | チャレンジテスト後に評価する。 | 丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。 | | | |
| 教務 | 6 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。 (R5 1年【78期】3科 46.7) (R6 1年【79期】3科 38.1) 2年【78期】5科 51.4) | — | チャレンジテスト後に評価する。 | 丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。 | | | |
| 集育 | 7 年度末の校内調査における「悩みなどの相談にのってくれる仲間がいる。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（90.5%）より増加させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 仲間だけでなく、教員も相談に乗れるような関係性を構築する。 | | | |
| 保体 | 8 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 体を動かすことのメリットとともに楽しさを伝えていくようにする。 | | | |
| 保体 | 9 『新体力テスト』における総合評価(A～D)で、C以上の割合を男女とも70.0%以上にする。 | B | 全体78.6%（男子71.1%、女子85.7%） | 来年度もこの指標を達成できるよう体力向上に取り組んでいきたい。 | | | |
| 教務 | 10 年度末の校内調査における「自分で計画を立てて、学習に取り組んでいる」について前年度（76.7%）より増加させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 定期テストに向けて学習計画を立て、生徒が個々の目標に向けて取り組めるようにする。 | | | |
| 教務 | 11 生徒の授業内容をわかろうとする態度をみていく。年度末の校内調査「授業のわからないことについて、先生に質問しやすい」について肯定的に回答する生徒の割合を前年度（83.6%）より増加させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 教師側の一方的な授業にならないように心がけ、生徒が質問をしやすい環境をつくる。 | | | |

| | | | | | | | | |
|----|----|--|---|------------------|--------------------------------|--|--|--|
| 教務 | 12 | 年度末の校内調査の「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」という質問の肯定的回答を肯定的回答を73%以上にする。 | — | 年度末の校内調査後に評価を行う。 | 一問一答だけでなく、生徒が自分で説明する機会を授業で増やす。 | | | |
|----|----|--|---|------------------|--------------------------------|--|--|--|

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（様式2 目標別シート） | | | | | | | |
|--|---|-------------|---|---|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | |
| 年度目標 | | | | | | | |
| 【3つの最重要目標】 目標3 学びを支える教育環境の充実 | | | | | | | |
| 【大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標】 | | | | | | | |
| | | 2 学期 | | | 3 学期 | | |
| 担当 | 項目 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| C I O | 1 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 | A | 生徒の8割以上が学習者用端末を活用した実績は8月終了時点で、58授業日中50日達成で86.2%である。 | 12月に学習者用端末の更新を控えている。大きく数値が落ち込まないように、今後も取り組みをしていく。 | | | |
| 管理職 | 2 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を40%以上にする。(R6 35.0%) | B | 勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が8月の時点で55%である。(昨年度8月時点は50%) | 2学期以降は学校行事やテスト、進路指導など業務も増えるが、業務のスリム化や会議の時短を進める。 | | | |
| C I O | 3 アンケート「日々の活動の中で学習端末を活用している。」において、肯定的回答の割合を85%以上にする。 | — | navimaやクラスルームを通じた課題や連絡を含めて端末を活用した教育活動ができています。 | 教育活動に限らずフォームを活用した行事の事前事後アンケートの実施は集計の負担の軽減も実現できる。積極的に活用していきたい。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（様式2 目標別シート） | | | | | | | |
|--|--|-------------|-------------------------|---|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | |
| 年度目標 | | | | | | | |
| 【その他】 柴島中学校教育目標について | | | | | | | |
| | | 2 学期 | | | 3 学期 | | |
| 担当 | 項目 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 教務 | 1 「自他への思いやりのある生徒」校内調査「悩みなどの相談にのってくれる仲間がいる」の項目の肯定的回答を前年度（90.5%）より向上させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価する。 | 授業や行事を通してお互いの考えを認め合えるようにする。 | | | |
| 教務 | 2 「意欲的に学習に取り組む生徒」校内調査「授業はわかりやすく楽しい」の項目の肯定的回答を前年度（91.4%）より向上させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価する。 | 丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。 | | | |
| 教務 | 3 「心と体の成長を図る生徒」校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」の項目の肯定的回答を前年度（73.3%）より向上させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価する。 | 学校生活での学習や経験を通して、自分自身を認め、自己肯定感を高められるようにする。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート) | | | | | | | | |
|--|----|---|-------------|--|--|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | |
| 9教科の目標と総括 | | | | | | | | |
| | | | 2学期 | | | 3学期 | | |
| 担当 | 項目 | | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 国語 | 1 | 漢字や語句の反復練習を通して、「知識・技能」の基礎・基本を身につけさせる。言語活動の充実により伝え合う力を高め、思考力や表現力、想像（創造）力を養う。 | B | 全学年において、漢字小テストを定期的に行い、「知識・技能」の基礎・基本を身につける取り組みができています。 | 1年生においては、漢字の書き、2年生においては、漢字の読みの正答率が低いため、復習に取り組んでいきたい。 | | | |
| 数学 | 2 | 少人数分割授業を展開し、基礎・基本の定着をめざす。また、言語活動を活発化することにより数学的に考察する力を高める。 | B | 1・2年生では少人数分割授業または習熟度別少人数授業を行い、基礎・基本の定着を図った。また、3年生ではグループ活動とT・Tを行い、教え合うことで言語活動を活発にした。 | 今後は図形の単元に入っていくので、少人数分割授業または習熟度別少人数授業を使い分けながら指導をしていく。 | | | |
| 英語 | 3 | 少人数、習熟度別分割授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。ICT等を活用し生徒の興味関心をひき、主体的に英語を使う態度を育むよう工夫する。 | B | 全学年、デジタル教科書などのICTを活用しており、主体的に取り組む態度を養うための自己評価シートや単語の例文づくりなどの工夫をしている。 | 後期に向け、既習事項の復習も兼ねて、少人数・習熟度別授業を展開していく。 | | | |
| 理科 | 4 | 授業を通じて、特に実験・実習時間の中で、主体的な学びを目指す。また、自然とのかかわりを持つことができる授業をめざす。 | B | 実験の時間を多くとることができている。 | 実験後の授業で、グループでの考察時間を多く取り、「考える力」を養っていく。 | | | |
| 社会 | 5 | 正しい情報を読み解く力をラジオ放送やニュース映像、動画教材を積極的多角的に取り入れ、視覚効果を高めた授業を展開する。また自学自習のツールとしてICT課題を定着させ評価に取り入れる。従来の授業形態から、班活動を中心に協働学習を展開する。 | B | 班活動を中心に協働学習を継続している。またnavimaの定期テスト対策は概ね定着、ラジオニュースの聞き取って書く活動も継続している。 | 個々への学習アプローチが弱くなりがちなので、個人への発問も取り入れる。 | | | |
| 音楽 | 6 | 幅広く音楽に触れる中から、個性や想像力、自分を表現する力をはぐくめるようにすることをめざす。 | B | 歌唱分野では、音量や発音を意識して曲想に合った表現を考えながら歌うこと、また、器楽分野（リコーダー）では、タンギングや息の入れ方を工夫し、曲に合った演奏を行うことができた。 | 創作分野に関しては、引き続き学習者用端末を活用していきたい。音楽が得意ではない生徒へのアプローチを丁寧にやっていきたい。 | | | |
| 美術 | 7 | 創造することに対する喜びと、作品が完成した時に達成感を味わうことのできる授業をめざす。また後片付けのできる生徒の育成もめざす。 | B | 制作に集中して取り組んでいる。丁寧に制作することも定着しつつある。 | 自らの思考を制作に活かせるよう、きめ細かく指導していく。 | | | |
| 技術 | 8 | 実践的・体験的な活動を通して基本的な知識と技術を習得し、生活をよりよくしようという能力と態度を育てる。 | B | 技術分野では1年生、2年生において製作実習を行うことができた。 | 2学期以降も製作実習、プログラミングによる制御など、生徒たちが興味を持って臨めるように実施していきたい。 | | | |
| 家庭科 | 9 | 実践的・体験的な活動を通して基本的な知識と技術を習得し、生活をよりよくしようという能力と態度を育てる。 | B | 各学年ともにグループ学習の形態で、実習を通じた技術の習得と共に、日常生活に活用できる知識と基礎技術の定着を図っている。 | 一人一人に合わせた教材の工夫に努めたが、より一層細やかな指導に努めていきたい。 | | | |
| 保健体育 | 10 | 運動の大切さを理解し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。 | — | 年度末の校内調査後に評価する。 | 生涯スポーツを見つけられるような授業展開を目指していく。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート) | | | | | | | | |
|--|------|--|--|-------------|---|-------------|---|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | |
| 目標1 安全・安心な教育の推進 | | | | | | | | |
| 【施策① 安全・安心な教育環境の実現】 | | | | | | | | |
| | | | 2 学期 | | | 3 学期 | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 集育 | 1 | いじめ・問題行動に対応する制度の活用 ・「学校安心ルール」の成案の実施・地域活動協議会など関係諸機関と協力し、児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる環境の整備 | ・学校安心ルールの配付と指導を年間1回以上行う。 ・地域活動協議会との打ち合わせを月1回以上行う。 | B | 学校安心ルールについては、ホームページに掲載し各家庭へ周知を図った。 青少年指導員とは頻繁に打ち合わせを実施している。 | | 学校安心ルールを適用しなくてもよい日常を目標して指導を続けていかなければならない。 地域関係機関とは今後とも密接な連携をとっていききたい。 | |
| 集育 | 2 | 不登校や児童虐待などの課題への対応 ・区役所子育て支援などとの連携を密にし、児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる環境を整備 ・専門家からの助言をもとに適切な支援を実施・指導助言を通した生活指導体制の確立・強化 | ・学年の集団育成部を中心にして不登校生徒の対応を週に1回以上行う。 ・専門家、関係諸機関と連携しながら、不登校生徒の減少をめざす。 | B | 登校しにくい生徒やヤングケアラーの疑いのある生徒については各学年ともかなりの頻度で家庭と連絡を取っている。また区役所子育て支援室・こサポネット・SSW・こ相・放課後デイサービス・サテライト・適応指導教室などともその都度関係を構築しながら、連携の強化に努めた。 | | 登校の兆しが見えてきた生徒もいる半面、まったく変化の見られない生徒もいる現状をどう打破していくのか、検討していく必要がある。 関係諸機関とは今後も情報交換を密にしながら、連携を継続していききたい。 | |
| 集育 | 3 | 防災・減災教育の推進 ・「防災・減災教育カリキュラム」の作成とその実践 ・区や地域等と連携した防災減災教育と活動の展開 | ・「防災・減災教育カリキュラム」を作成し、区や地域や小学校などと連携した活動を行う。 | B | 11月19日水曜日に「防災学習」を実施。地域ごとに町会長・防災リーダーらと顔を合わせ、救急救命、消火訓練等を区役所・消防署の協力のもと実施予定である。 | | 防災・減災を生徒とともに考え、実際に災害が起きた時に、自助・共助・公助の意識を持つように指導していく。 | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 （ 様式2 目標別シート ） | | | | | | | | | |
|--|------|--|------|-------------|---|---|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | | |
| 目標1 安全・安心な教育の推進 | | | | | | | | | |
| 【施策② 豊かな心の育成】 | | | | | | | | | |
| | | | 2 学期 | | | 3 学期 | | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 道徳 | 1 | 道徳教育の推進 ・教科書を中心とした考え議論する道徳教育を実践 ・家庭や地域などと連携したボランティア活動や福祉体験の実施、生徒の実情に応じた出前授業プログラムの実施 | | B | 教科書を中心とした道徳教育を実践できている。また、1年生は福祉体験学習、2年生は障がい者理解教育～ゆめ風プロジェクト～を行う予定である。 | 引き続き道徳の授業を充実したものにしてい | | | |
| キャリア | 2 | キャリア教育の充実 ・職場体験学習・職業講話や職場見学・産学連携 | | B | 1学期において、2年生では職場体験学習を実施し、働くことの意義や大変さを学ぶことができた。 | 3学期は、1年生が職場訪問学習を実施する予定である。 | | | |
| 人担 | 3 | 人権を尊重する教育の推進 | | B | 各学年において、関係機関と連携を取り、計画に基づき取り組みを進めている。 | 引き続き、各学年の取り組みを引き継ぎながら充実したものにしてい | | | |
| 特支 | 4 | インクルーシブ教育システムの充実と推進 ・特別支援教育サポーター、インクルーシブ教育推進スタッフの活用 ・巡回相談の活用による、実施学校園における支援体制の構築と強化 ・教職員、児童生徒、保護者等に対し、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の推進 | | B | 特別支援教育サポーターや学年の先生方のおかげで教室内での配慮や抽出授業ができている。また、巡回相談の活用を行い、生徒の支援の仕方の助言もいただいた。 | 今後も継続して行い、個に応じた支援を続けていきたいと考えている。 | | | |
| 音楽 | 5 | 音楽・吹奏楽、芸術全般に親しむ機会の創出 | | B | 7月上旬に「演劇」をテーマとして芸術鑑賞会を行った。多くの生徒が興味・関心を持ち、楽しみながら鑑賞することができ、事後アンケートではほぼすべての生徒が「とても楽しかった」「楽しかった」と答えていた。 | 来年度は「音楽・パフォーマンス」をテーマに実施する。様々な演目から選択ができるよう、計画立てて早めに取り組むようにしたい。 | | | |

| | | | | | | | | | |
|----|---|--------------|--|---|---|---------------|--|--|--|
| 総務 | 6 | 校内美化と健康管理の推進 | ・委員会活動を中心に、健康管理を行う。また、日々の清掃活動を通して学習環境の整備を行う。 | B | 保健委員の生徒を中心に、教室内の換気と室温設定等健康管理を行っている。また、日々の清掃の他に月1回特別区域清掃を行い、学習環境の整備に努めている。 | 今後も継続して行っていく。 | | | |
|----|---|--------------|--|---|---|---------------|--|--|--|

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート) | | | | | | | | |
|--|------|--|--|-------------|--|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | |
| 目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上 | | | | | | | | |
| 【施策④ 誰一人取り残さない学力の向上】 | | | | | | | | |
| | | | 2 学期 | | | 3 学期 | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 教務 | 1 | 学力の向上① ・全国学力・学習状況調査の結果分析から見えてきた本校の課題の一つである「学習意欲の向上」を十分図れる授業の実践 | ・校内調査の「授業はわかりやすく楽しい」に対する肯定的回答のポイントを向上させる。 (R6 91.4%) | — | 年度末の校内調査後に評価する。 教員側の一方的な授業にならないように心がけ、生徒が質問をしやすい環境をつくる。 | | | |
| 教務 | 2 | 学力の向上② ・言語活動の充実をより一層進め、チャレンジテストなどへの記述式問題などへの意欲の向上 | ・チャレンジテスト設問別解答データの記述式問題を府平均と比較する。 (R6 2年 1.28 1年 1.08) | — | チャレンジテスト後に評価する。 一問一答だけでなく、生徒が自分で説明する機会を授業で増やす。 | | | |
| 教務 | 3 | 学力の向上③ ・習熟度別少人数授業の実施 | ・習熟度別少人数授業に関する生徒アンケートで「授業がわかる」という肯定的回答の割合を50%以上とする。 | — | 年度末の校内調査後に評価する。 国語や英語でも可能な限り習熟度別少人数授業を展開していく。 | | | |
| 研修主担 | 4 | 「主体的・対話的で深い学び」の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進に係る研修会・研究協議会への参加推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進に向けた校内研修の充実 ・個に応じた指導の充実のための学習教材データ配信の有効活用 | ・主体的・対話的で深い学びの推進を図る研修に参加を推進する。 ・学習教材データを活用して、個に応じた指導をする。 | B | メンター研修として百問繚乱の使い方研修を1学期に行ったが、メンティーだけでなく、すべての教職員対象の研修として実施することができた。 2学期、3学期もICTを中心とした研修を1回ずつ行う予定である。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 （ 様式2 目標別シート ） | | | | | | | | | |
|--|------|---|---|-------------|--|---|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | | |
| 目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上 | | | | | | | | | |
| 【施策④ 誰一人取り残さない学力の向上】 | | | | | | | | | |
| | | | 2 学期 | | | 3 学期 | | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 英語 | 1 | 英語教育の強化 ・小中連携して効果的な英語教育の推進 ・研究討議を行うシステムの構築・効果的な校内研修の実践 | ・英語力調査で大阪市の平均点を上回る。 ・CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を昨年度同等まで引き上げる。 | — | 10月24日の英語力調査実施後に評価する。 | 授業中において4技能をバランスよく取り入れるようにする。 | | | |
| 技術 | 2 | プログラミング教育の推進 ・プログラミング的思考の育成に向けた授業づくり | ・アルゴリズムなどプログラミングに必要な思考力の育成を目標に、3年生においてプログラミング教材を活用した授業を8時間以上行う。 | — | 3年生の前半は情報の基礎に関する内容を中心に授業をしてきた。後半は演習中心の授業を予定している。 | 10月後半からロボット教材と、スクラッチタイプのプログラミング演習を実施する予定である。 | | | |
| 外担 | 3 | 多文化共生教育の推進 ・授業等における日本の文化や異文化についての体験的な学習の推進 | ・授業等で、日本の文化や異文化、日本における外国人の方との共生について考える機会を設け、理解する。 | — | 現在は実施できていない状況である。 | 3学期に、日本の文化や異文化、日本における外国人の方との共生について考える機会を設ける予定である。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート) | | | | | | | | | |
|--|------|--|---|-------------|---|---------------------------------------|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組みなかった | | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | | |
| 目標2 未来を切り拓くための学力・体力の向上 | | | | | | | | | |
| 【施策⑤ 健やかな体の育成】 | | | | | | | | | |
| | | | 2学期 | | | | 3学期 | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 保体 | 1 | 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実 ・区や地域・家庭との連携により、子どもが運動やスポーツに親しみ、楽しむ機会の確保 | ・校内アンケートにおいて、「体育の授業以外で積極的に運動を行い、運動の楽しさや喜びを味わうことができたか」という質問に対し、肯定的回答を80%以上にする。 | — | 年度末の校内調査後に評価する。 | 授業等で、体を動かす楽しさや喜びを伝え、自ら運動に親しめるようにしていく。 | | | |
| 保体 | 2 | 健康に関する現代的課題への対応 | ・学校アンケートで「朝食は毎日食べている」という質問に対する肯定的回答の割合を前年度(90.0%)と同じ、または前年度より増加させる。 | — | 年度末の校内調査後に評価する。 | 朝食の大切さをこれからも伝えていく。 | | | |
| 給食 | 3 | 食育の推進 ・「食に関する指導の全体計画」ならびに「食に関する指導の年間指導計画」をもとに実践 | ・月1回、給食や食に関する通信を発行する。 | B | 指標通り実施できている。 | より残食が減るように取り組んでいく。 | | | |
| 給食 | 4 | 中学校給食の充実に向けた総合的な取組 | ・校内放送を利用し、週1回給食の献立や食材について紹介する。 | B | 指標通り実施できている。 | 引き続き給食への関心が高まるよう取り組んでいく。 | | | |
| 性教育推進委 | 5 | 子どもの心身の発達に即した性教育の推進 | ・各学年とも、それぞれの指導計画にそって4時間程度実施する。 | B | 指標通り実施できている。3年生は1学期に実施済み、1・2年生は年度後期に実施予定。 | 1年生については11月に4時間程度実施予定である。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート) | | | | | | | | | |
|--|------|---|--|-------------|--|--|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | | |
| 目標3 学びを支える教育環境の充実 | | | | | | | | | |
| 【施策⑥ 教育D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 | | | | | | | | | |
| | | | 2 学期 | | | 3 学期 | | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| C I O | 1 | I C Tを活用した教育の推進 ・全小中学校に整備された1人1台端末等のI C T機器を活用した授業の実施 | ・学習活動の場面でI C T機器を活用することができる状況を作る。 ・学期末のアンケートにおいて「学校は、積極的にI C Tを取り入れている。」の肯定的意見の割合を85%以上とする。 | — | 各教科においてデジタル教科書やプリントなどを投影し授業が行われている。調べ学習やクラスルームを通じた課題や資料の提供が行われている。 | 今後も継続して活用を促進していく。 達成状況はアンケート結果をもって行う。 | | | |
| 教務 | 2 | シンクタンク機能の充実 ・「waku×2.com-bee（大阪市の授業のスタンダード）」を活用した教員の指導力向上の取組の実施 | ・waku×2.com-bee（大阪市の授業のスタンダード）（東書ライブラリーを含む）を活用した教員の割合を昨年度よりも1ポイント超える。 | — | 3学期に校内アンケートを実施し評価する。認知されているものの活用している教員はまだ少ない。 | 活用方法等を互いに共有できる場を作る。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 （ 様式2 目標別シート ） | | | | | | | | | |
|--|------|---|--|-------------|---|---|-------------|---------------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | | |
| 目標3 学びを支える教育環境の充実 | | | | | | | | | |
| 【施策⑦ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 | | | | | | | | | |
| | | | 2 学期 | | | 3 学期 | | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況 や取組の進捗状況の 結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況 や取組の進捗状況の 結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 研修主担 | 1 | 若手教員の指導力向上と 校内研修の支援 | ・メンター研修を 年3回以上実施する。 | B | 1学期に1回、10 月後半に2回目の メンター研修を行 う予定である。 | 授業力向上のため に、I C T研 修を行ってい く。 | | | |
| C I O | 2 | 校務負担を軽減するた めの環境整備 ・校務支援 I C Tの機能 の十分な活用による学 校教育の質の向上と学 校経営の効率化 ・学校ホームページや 保護者メールで保護者 、地域へ情報発信 | ・授業・校務におい て必要な機器等を計 画的に配備できるように 準備する。 ・学校のWebページ においては、日記以外 においても部活動など 更新を行う。 | C | 不具合が生じてい る機器やHDMIケー ブルの接点不良等が 生じている問題点 はある。 | 機器については、 予算との兼ね合い もあるが、授業に 支障が出ないように 対応していきたい。 部活動に関する内 容は小学生向け情 報として活用でき るように、年度内 に更新したい。 | | | |
| 小中連携 | 3 | 小中一貫教育の充実 | ・小中連携の授業 や研修などを年1 回以上行う。 | — | 6月20日に小学6 年生を対象に、中 学校で部活動体験 を実施した。 | 2月に中学校から 出前授業体験を 実施する予定 である。 | | | |
| 管理職 | 4 | 働き方改革の推進 | 第2期「学校園に おける働き方改革 推進プラン」に掲 げる教員の勤務時 間の上限に関する 基準1を満たす教 職員の割合を40% 以上にする。(R6 35.0%) | B | 勤務時間の上限に 関する基準1を満 たす教職員の割合 が8月の時点で 55%である。(昨 年度8月時点は 50%) | 2学期以降は学 校行事やテスト、 進路指導など業 務も増えるが、業 務のスリム化や会 議の時短を進め る。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート) | | | | | | | | | | |
|--|------|--|--|-----|-------------|--|---|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | | | |
| 目標3 学びを支える教育環境の充実 | | | | | | | | | | |
| 【施策⑧ 生涯学習の支援】 | | | | | | | | | | |
| | | | | 2学期 | | | 3学期 | | | |
| 担当 | 取組内容 | | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 図書 | 1 | 学校図書館の活性化 ・知的好奇心を高める環境づくりをすすめ、授業での活用や補充学習での使用を促進する。 | | | B | 毎週火曜日に実施の「ブックリユース」は昨年40冊弱の廃棄図書削減に対し、今年度は10月現在で82冊を数える。新刊の案内を通して、今後の来館人数増加に期待したい。 | 教科でのビブリオバトル開催や、新刊の案内、ブックリユースを通して来館者数を伸ばす手立てとする。 | | | |

| 大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 （ 様式2 目標別シート ） | | | | | | | | | |
|--|------|---|--|-------------|--|---|-------------|-------------------------|----------|
| 評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった | | | | | | | | | |
| 3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策 | | | | | | | | | |
| 目標3 学びを支える教育環境の充実 | | | | | | | | | |
| 【施策⑨ 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 | | | | | | | | | |
| | | | 2 学期 | | | 3 学期 | | | |
| 担当 | 取組内容 | | 指標 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 今後への改善点 | 達成状況 A～D | 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 次年度への改善点 |
| 社会 | 1 | 大阪の歴史・現状・文化についての学習 ・学校行事や「総合的な学習の時間」における大阪の文化や伝統についての体験的な学習の推進 | ・大阪・関西万博の見学、大阪体験などの行事や地歴授業を通して、地政学を交えて歴史や文化の視点を養う。 | B | 大阪・関西万博見学の展示発表を行った。また教科の導入で時事問題に触れることで、家庭内の会話が増えたとの保護者の声を複数耳にした。 | 歴史分野の世界遺産学習を通して、大阪の古墳文化、明治期の自由民権運動での大阪会議などに触れる。 | | | |
| 集育 | 2 | 登下校時の子どもの安全確保 | ・学期に1回、全校集会にて不審者情報や登下校の注意喚起を行う。 | B | 部会・職員会議での具体的な検討はしていないものの全校朝礼での講話において、交通安全ならびに不審者対策などについては、生徒に啓蒙を図った。 | 不審者情報など地域の情報があれば全校集会等で生徒に連絡していく。 | | | |
| キャリア | 3 | 産業界との連携 | ・校区内外の企業や公的機関等と連携し、職場訪問ならびに職業体験を実施する。 | B | 1学期において、校区内外の企業や公的機関等と連携し、2年生では職場体験学習を実施することができた。 | 3学期は、1年生が職場訪問学習を実施する予定である。 | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------|---|--|--|---|---|----------------------------|--|--|--|
| 研修 主担 | 4 | 地域・区域における生涯学習推進と学校園とのネットワーク ・はぐくみネット、学校元気アップ地域本部事業ならびに生涯学習ルーム等との連携 | ・テスト前の勉強会（柴スタ）を地域と連携して行い、参加する生徒数を昨年度以上とする。 | B | テスト前の学習会（柴スタ）など、元気アップコーディネーターの方々が中心となつて実施できてい | 今後も地域と協力のもと、学習会等を実施していきたい。 | | | |
|----------|---|--|--|---|---|----------------------------|--|--|--|